

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第28回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともに紹介します。

「森林パトロール」

森林の見回り、現地確認は国有林の業務の中で日常的に行われますが、「森林パトロール」「山岳パトロール」という言葉は特に高山植物保護のための巡視活動や登山者への呼びかけの際に使われることが多いです。



無線を携帯しての森林パトロール
(昭和30年代後半・旧長野営林局管内)



パトロールの様子
(昭和44年・現在の南信森林管理署管内)

北アルプスの上高地は大正五年に保護林が設定されたこともあり、松本営林署（中信森林管理署）により高山植物盗掘等取締の為の詰所（小屋）が作られ、巡視が行われました。高山営林署（飛騨森林管理署）でも大正時代から高山植物の保護管理活動が行われ、乗鞍岳には高山植物監視所もありました。また、富山営林署（富山森林管理署）、飯田営林署（南信森林管理署）などの高山地帯を管轄する各地の営林署管内でも森林パトロールが行われてきました。

森林パトロールは職員のほか、非常勤の森林保護員、学生・社会人のアルバイトの方々などの協力も得ながら巡視、入山者への指導・啓発などを行ってきました。時代と共に形式や課題に変化はありますが、入山者と国有林の間を取り持つ役割もあり、いつの時代も苦労が絶えないエピソードが聞かれます。



パトロールの七つ道具①のぼり②ハンドマイク③腕章④パンフレット⑤配布用グッズ（カード、バッジ、リボン）⑥保安帽⑦登山者の意見をもらう「らくがき帳」
(昭和49年・現在の飛騨森林管理署管内)

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。
当サイトへは、コードを読み込んでください。

